太宰 治と富士

富士には、月見草がよく似合う。

この一節で知られる太宰治の名作『富嶽百景』。太宰治にとって人生の転機となった甲州での日々のひとこまを描いたこの作品は、河口湖と富士吉田とをそのおもな舞台としています。

御坂峠、海抜千三百一米。この峠の頂上に、天下茶屋という、小さい茶店があって、井伏鱒二氏が初夏のころから、ここの二階に、こもって仕事をして居られる。私は、それを知ってここへ来た。

太宰ならではの、言葉のひとつひとつをたしかめ、首肯しつつ紡ぐがごとく、幾度も幾度もおかれる読点。

河口湖の湖畔を離れ、次第に傾斜を増していく国道137号線をしばらくのぼると、笛吹市へと向かう長大な御坂トンネルが見えてきます。その入り口を横目に小さな道を右に入ると、そこは《御坂みち》とよばれる県道708号線。右手にときおり顔をのぞかせる河口湖の遠景を望みつつ、右へ左へとうねる坂道を這うようにのぼりつめると、やがて旧御坂トンネルの入り口にたどり着きます。重厚な雰囲気をただよわせるトンネル入り口の門番ででもあるかのごとく、その手前にたたずむ趣のある小さな店、そこが《天下茶屋》

です。師と仰いだ井伏鱒二に導かれるように太宰はこの茶店を訪れ、昭和13年の秋、およそ三ヶ月間その二階の一室に逗留し、『富嶽百景』を執筆しました。

いちど吉田に連れていってもらった。おそろしく細長い町であった。岳麓の感じがあった。

富士吉田で一夜を過ごした太宰は、人影もない夜道を懐手して、下駄の音を響かせながら歩きます。太宰の筆の力を得て描かれる富士吉田は、幻想的な静寂につつまれています。

夜の十時ごろ、青年たちは、私ひとりを宿に残して、おのおの家へ帰っていった。私は、眠れず、どてら姿で、外へ出てみた。おそろしく、明るい月夜だった。富士が、よかった。月光を受けて、青く透きとおるようで、私は、狐に化かされているような気がした。富士が、したたるように青いのだ。燐が燃えているような感じだった。鬼火。狐火。ほたる。すすき。葛の葉。私は、足のないような気持で、夜道を、まっすぐに歩いた。

太宰の描写に浮かび上がる吉田の町は、たまらなく美しい。岳麓の町を見守るがごとく月夜にうっすらとその夢幻の姿をあらわす霊峰は、今もなお、この「細長い町」の夜の情緒を演出しています。

文と写真：「文学」担当　田中周一

昭和大学の国際交流・海外研修

昭和大学では、学年・学部ごとに様々な国際交流プログラムが組まれており、毎年多くの学生が海外で実習・研修をおこなっています。新入生のみなさんはこれらのプログラムを大いに利用し、今後の学習に役立ててください（10万円以内の補助あり）。

・1年次：「1年次夏期研修」ポートランド州立大学　（アメリカ）
約1ヶ月間［7月下旬～8月中旬］（医・歯・薬・保）

・2年次：「UCLA サマーセッションズ &Hospital Visit」
カリフォルニア大学ロサンゼルス校（アメリカ）
6週間［6月中旬～7月下旬］（医・薬）　※選考試験あり

「短期海外実習・研修プログラム」チューレン大学　（アメリカ）
2週間［8月中旬］（医）　※3年次、4年次も可

「春季英会話集中プログラム」ポートランド州立大学　（アメリカ）
2週間［3月中旬］（医・歯・薬・保）　※3年次、4年次、5年次も可

■6年次（M,D,P）の選択実習（4, 5, 6月）を 海外の大学や医療施設で行うことも可能です。

■お問い合わせ：国際交流センター　TEL　03-3784-8266

編集後記

新年度を迎え、都心より心もち長い冬を過ごした富士吉田校舎にも、ようやく桜の開花の訪れる時季となりました。おかげさまで、『白樺・百合』も初回発刊から4年目を迎え、第12号となります。今回のメイン記事は、富士吉田での一年間の流れに係るものとなっております。入学・入寮にあたり、新入生のみなさんは様々な不安を抱えていることと思いますが、美しい自然に囲まれたこの富士吉田の地でチーム医療の基礎を学び、かつ充実した学生生活を謳歌していただきたいと思います。

次回、第13号の発刊は7月に予定しております。よろしくお願いいたします。

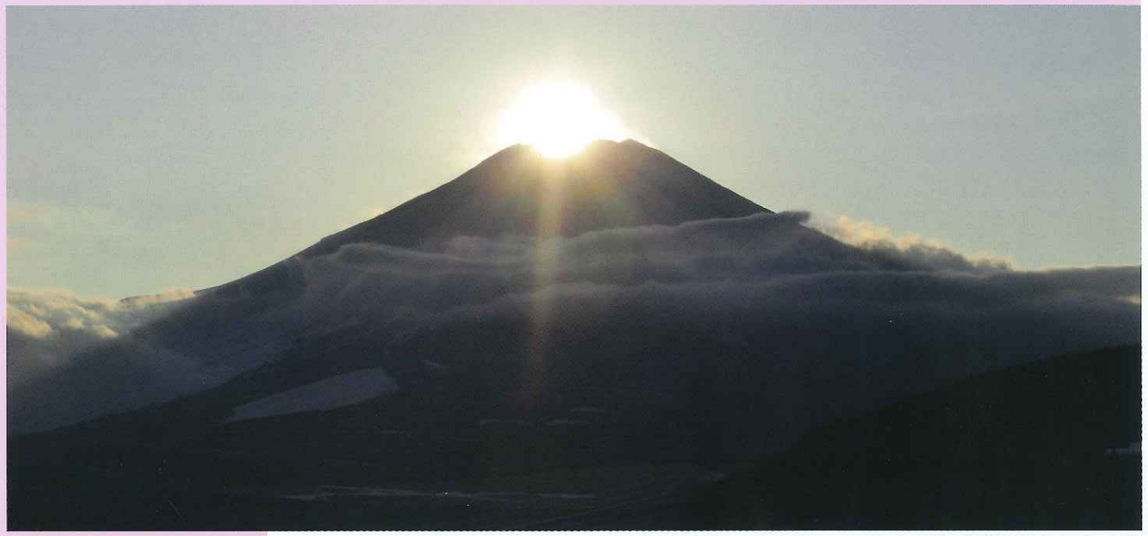
編集委員　高田中成

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

白樺・百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第12号　2011.4.8 発行

発行責任者　富士吉田教育部長　片桐　敬
編集責任者　富士吉田教育部広報委員長　倉田知光
〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田4562
TEL 0555-22-4403



富士吉田教育部　田中一正　撮影

平成23年の新入生を熱烈歓迎いたします。

昭和大学学長　**片桐　敬**

ようやく遅い春がやってきましたここ富士吉田キャンパスに新入生の皆さんをお迎えし、思い出深い一年間を過ごしていただけるように、職員一同、精一杯の歓迎をいたします。伝統ある、誇り高き昭和大学学生として、いよいよ近い将来の医療人になることを目指して、大学生活が開始されます。

約一か月前の3月11日（金）に、我が国は、東北地方太平洋沖大地震を経験いたしました。1万人以上の尊い人命が失われ、計り知れない財産が破壊されました。新入生の中にも地震の被害に遭われた方がおられるかもしれません。亡くなられた多くの方々の御霊に深く哀悼の意を表します。こういう時にこそ、我が昭和大学はお互いに助け合ってこの逆況を乗り越えなくてはなりません。それを可能にするのは昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」であります。学祖上條秀介先生が唱えられたこの言葉は、何事も心を込めて精一杯尽くすという意味であります。

初年次学生は、ここ富士吉田キャンパスで四人一部屋の全寮生活を、学部混合で過ごします。全寮制は既に四十七年間も続いており、単なる住居ではなく、医療人を目指す学生が、お互いの考えを理解し、将来、チーム医療を行っていくためのコミュニケーション能力を学習する社会学習の場でもあります。学習することは山ほどあります。安心のあまり心がゆるんでしまわないように、早速勉学にいそしんでください。また、霊峰富士のもと、白樺や赤松の林に囲まれたすばらしい緑の環境で、クラブ活動が盛んです。大いにクラブ活動に精を出してください。私たち職員一同も楽しい学習の場となるようにいろいろと工夫をいたします。高校時代とは全く違う大学生活を楽しんでいただきたい。一年間のすばらしい思い出とともに富士吉田キャンパスを巣立っていかれる方がほとんどです。だれてしまうことなく、心を引き締めて第一歩を踏み出してください。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

一年間のイベント

歯学部　濱田真実（土佐女子高等学校出身）

雄大な 富士山を毎日近くに仰ぎながら富士吉田校舎で過ごす一年間は、イベントの目白押しです。まず入学して一カ月が経ったころ樹海を舞台にしての各部屋コン対抗のオリエンテーリングがあります。とても体力を使いますが、コンパの仲間と仲良くなるいいチャンスです。次に６月には二日間にわたる寮祭があります。これはオープンキャンパスも兼ねており、吉田での最も大きいイベントと言っても過言ではないでしょう。私は部活やフロアでの出し物で大忙しでしたが、夜の花火も含めとても楽しいものでした 。そして 12 月にはクリスマスパーティーがあります。春夏秋冬と一緒に過ごしてきた友人たちとの絆を確かめ合える最後の記念すべきイベントでもあり、思い出作りにみんな最高に盛り上がったことでした。

以上は一年生全体としてのイベントですが、私個人として経験したもう一つのイベントについてお話しします。それは私が所属している管弦楽団によるボランティア活動です。学校近くの施設や病院で、同じ部活の仲間とさまざまな曲を披露しました。このことを通し、自分が楽しいと思えることを、部活の仲間だけでなく、老人ホームの利用者さんや患者さんと共有する喜びを知りました。

これから吉田生活をスタートする新一年生たちはこの一年間に何を得るのでしょうか。人それぞれ異なると思いますが、たくさんの経験をし、多くの仲間とともに実りある充実した生活が送れますように願っています。

注）部屋コン／コンパ：昭和大学では指導担任制度をしいており、各教員が１グループ 16 ～ 20 名の学生の担任となってきめ細かい指導をおこなっています。このグループの通称が「部屋コン／コンパ」です。

富士吉田校舎での一年間の学習について

医学部　大杉文宏（淳心学院高等学校出身）

四学部すべての１年生は、自然環境豊かな富士吉田において全寮制の共同生活を送りながら、教養、基礎から専門まで多彩な講義・実習に取り組みます。

科目の一例を挙げると、PBL（Problem Based Learning）という学習では、学部の枠をこえてランダムに構成されたメンバーで問題を解決、そしてメンバー間での合意を発表します。

初年次体験実習では、これも同じく学部混成のメンバーで病院や福祉施設を訪問し、見学・体験します。今までとは違い、医療系大学生という視点で体験することは、医療人になる自覚とモチベーションを高めてくれるものでした。

この一年間の寮生活を通じて得られた大切なこと、あるいは価値あるものは、知識を高めることに加えて「自分自身を知る」ことではないでしょうか。つまり、自己の理解を深めることで自己の陶冶をはかれる、ということです。

みな同じ大学に入ってきたという点では同じものの、個人の得意分野や生活環境の違い、価値観の違いがあり、それぞれ出発地点も違えば、きっと将来の到達地点も違ってくるでしょう。しかし、だからこそ、お互いを知り合わないといけないと思います。私はそのための全寮制なのだと思っています。他人は自分を写す鏡だ、とよく言います。人とのふれあいによって、自分の隠れた部分が見えてくる。

大学１年生というのは、前途洋々の未来に迷うことが多い時期だと思います。富士吉田の雄大な自然の下で勉学に励みながら、多くの人との「出会い」を通じて新しい自分と出会える。それはとても魅力的なことではないでしょうか。

富士吉田校舎の寮生活について

薬学部　佐々木智子（桐蔭学園高等学校出身）

私の富士吉田校舎での寮生活は、今までで一番充実した一年で、早く感じた一年でした。入学式後すぐにバスに乗り、初対面の人たちといきなり同じ部屋で眠ったり、入浴をしたり、と他の大学では絶対にありえない体験が昭和大学での初日でした。初めはもちろん不安もありましたが、実際に生活してみると、毎日とても充実した楽しい生活でした。寮生活では、辛いときも楽しいときも友達と一緒にいることになるので、嫌でも友達は増えますし、何でも話せる友達もできます。試験のときに、私の苦手な科目を友達が夜遅くまで教えてくれたり、逆に私が教えたりと毎日助け合いながら学習ができることも寮生活の良いところだと思います。また、部屋コンでは指導担任の先生に食事に連れて行っていただいたり、心配事があれば親身になって相談に乗っていただいたりしました。

寮祭花火

また、6月におこなわれた寮祭では、部活ごとの模擬店や、バンドやダンスの披露など、1年生約600人がひとつとなって盛り上げていました。私も女子寮内のフロアで、毎日、時には夜中までみんなで練習をし、ダンスを成功させたことが、とても思い出に残っています。中でも私が感動したことは、最終日の夜、キャンパスのグラウンドでの打ち上げ花火でした。私たちのためだけの本格的な花火にとても興奮しました。1年生全体が、成功させるためにひとつになり、一生懸命になった寮祭は、寮生活での一番の思い出になりました。

富士吉田での寮生活では、一生の友達ができると思うので、思いっきり楽しんでもらいたいと思います。

食育について

ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活（寮生活）に期待と不安を抱きながらバスに乗り込んだと思います。お弁当を食べウトウトといい気分で居眠り、ちょうど目が覚める頃、左手に大きな富士山が見えてきませんか?そうです、ここ富士山のすそ野が皆さんの一年間生活する「富士吉田キャンパスです。

食堂では朝･昼･夕食と食べることにより、学生の皆さんがバランスのとれた食生活を送れるようなメニューでお待ちしています。

食育という言葉を聞いたことがありますか?健全な食生活を送るための能力を子供の時から身につけさせようというものですが、食育は子供より大人にこそ大切。朝食を食べる習慣のない親が子供のご飯を作れますか?包丁やまな板がなくて料理できますか?集団生活でのいいところは、仲間と朝も連れだって朝食抜き解消、食わず嫌いだったものが食べられるようになるかもしれません。何より大勢で食べるのは楽しいものです。

先輩たちも過ぎ去りし富士吉田での寮生活を懐かしみます。一年間はあっという間です。二年次から一人暮らしをする人は食事づくりの参考に、自宅から通う人は自分をサポートしてくれる家族のありがたさなど、ここでの食生活からいろんなことを感じとって欲しいと思います。

給食･管理栄養士　天野ひでみ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	→
入学式／入寮式	オリエンテーリング	体育祭／寮祭	前期定期試験／退寮	夏休み	／帰寮	初年次体験 実習		クリスマスパーティー／退寮・冬休み		帰寮・後期定期試験／退寮式・完全退寮	春休み	２年生へ進級 旗の台・横浜キャンパスへ

ウェルカムパーティー

オリエンテーリング

体育祭･寮祭

吉田の火祭り

オープンキャンパス

初年次体験実習

クリスマスパーティー

退寮式